

○相模女大家政 永井房子

実践女大家政 平山順之

〔目的〕 被服を美しく、しかも能率的に縫製する要素の一つにへらじりしがある。ことに直線縫いで縫製される和服は、縫い直しで縫い込みの位置をかえたりするので、へらじりしは縫い終れば消えるように強くはつけないといわれている。これまで、へらじりしに関して塚本氏によるへら圧とへらの曲率半径がへらじりしの深さに及ぼす影響について理論的に究明した報告がある。

しかし、へらじりしの強さ(以後へら圧という)、へらじりしの深度(以後へこみという)と素材との関連について実際面からの検討は未だなされていらない。そこで私達はこれらについて、布の種類、下敷、へら圧の違いによるへこみ量をとらえ、その結果と素材の物性について検討を行った。一方、実際面からへら圧の程度について和裁技術専門家による主観的判断基準としての官能量をとらえ、へこみ量との関連を検討した。

〔方法〕 へらじりしを一定条件で行うためへらつけ器を特別に作った。へらじりしの際の下敷は、木製と紙製の2種類を用いた。

予備実験によりへら圧を1kg, 2.5kg, 5kgの3段階、布の張力500g, 試料布10種類とした。へこみ量は触針法により測定した。素材の物性として厚さ、圧縮弾性率を求めた。

〔結果〕 へこみ率とへら圧の程度に関する官能量には、0.906と高い相関が認められた。このことからへらじりしの強さは、へこみ率で表わせ、素材と好ましいへら圧の関係が判明できる。また、へこみ率について布の種類、下敷、へら圧を主要因として三元配置法による分散分析を行った結果、いずれの要因においても1%水準にて有意性が認められた。